

CONTENTS

004 UPDATE&TOPICS

- 008 **[THE STRIKE GOLD]** 地球環境とデニムの新しい関係
- 010 **[栃木レザー]** 栃木レザーが“栃木レザー”である理由
- 014 **[DISTRACTION]** 必見こだわりデニムウェア
- 016 **2022**レザーアワード受賞作品決定
- 018 **[STUDIO D'ARTISAN]** ヴィンテージ仕様のセルヴィッジ・ジーンズ新生
- 021 **[革キチ]** 本格レザーをもちいた、気合の入った男のアイテム
- 022 **[キルキナス]** 最高のチョイスで自分の靴を——キルキナス
- 024 **[TOSS]** TOSSがおススメする白いスニーカーのシューズケア
- 025 **[robita]** インドアにしてアウトドア気分 レザーと暮らす贅沢空間
- 026 **[waji]** wajiが提案する独創的なブランドたち
- 027 **[Dr.sole]** Dr.soleを選んでお気に入りの靴をオリジナルシューズに

028 職人探求道 第3回 スタジオヒドゥン 文/飯野高広

030 イラストルポ 行ッテ、見テ、知ルブプレ!

イラスト・文/アベマナミ

特集

2023

032 履きたい革靴100足

033 革靴目線の革靴探訪 革靴女子 文/鈴木理也

034 馬革とはどんな革なのか? 文/鈴木理也

087 UPDATE&TOPICS



表紙の写真/青木健格 (WPP)



特集

2023 履きたい革靴 100足

国境や世代を超えたスニーカーへのシフトがますます鮮明になるとともに、「外出」の意味が大きな変化を遂げたここ数年が、文字通り生き残りを賭けたタイミングとなった革靴。コロナ禍などの環境の大胆な変化を経て、従来とは異なる方向の革靴に人気が移っている。長らくスニーカー人気だった市場から「革靴復権」の兆しが見えるイマ、長く革靴を見続けてきた3名の革靴愛好家ライターに本誌編集部を加え、2023年に履きたい革靴を選出してみた。国やジャンルに関係なくとりあげたセレクションから、革靴の現在地を考えるもよし、来年の一足を探すバイヤーズガイドとして使っていただければなおのことよし、である。

文/飯野高広、鈴木理也、山田純貴、本誌編集部
写真/鶴田智昭・青木健格（ともにWPP）、各メーカー
イラストレーション/小柳英隆

100足を選んだひと



飯野高広

靴全般の幅広い見識から雑誌への寄稿、専門学校講師、ブランド・アドバイザーなどを顔をもつ。著書『紳士靴を嗜む〜はじめての一步からきわめるまで〜』（朝日新聞出版）はこの分野のロングセラー。



鈴木理也

某有名ブーツメーカーの代表取締役を経て、現在は国内のメーカー、ブランドと組んで独自の視点でデザインした靴を世に送り出す。つくり手側から見る未来の革靴への課題も指摘する。



山田純貴

靴をはじめ財布や鞆など、男の道具に幅広く精通するベテランライター。とくに革に関する取材経験と知識は深く、価格の高い安いに関係なくモノの本質をすくいあげることに長ける。



本誌編集部

レザー、シルバー、デニム製品に日々触れるうちに何となく数だけは見ているような気がする凡人。モノを見る基準が“自分”以外にあるのでしょうか？ という態度で今日まで。



No. 001

CROCKETT & JONES / クロケット & ジョーンズ

■ REDHILL / レッドヒル

¥129,800

同社の1950年代のアーカイブを参考にデザインした一足。木型も当時の華奢で清楚なものを現代人の足に合うようアレンジした。ソールも土踏まず部を極限まで削ったベベルドエッジ仕様で、中敷きのロゴも当時のままだ。◎トレーディングポスト青山本店



飯野select

太目の2プリーツトラウザーズやピークドラベルのジャケットのような、近年復活著しい古典的なスーツとは非合わせたい一足。6穴の鳩目や縫合線にある細かなギンピング（ギザギザ）も当時っぽい雰囲気満点。平日以上にあって休日の、ちょっとイイ外出にバシッと履きこなしたい。

2023 履きたい革靴 100足



No. **075**

MINEZO SPORTS SHOES
／ミネゾウスポーツシューズ

■ **Cyclist** /サイクリスト

¥146,300

ヴィンテージのスポーツシューズのデザインと九分仕立の本格ドレス靴の製法を組み合わせたミネゾウスポーツシューズ。ヒドウンチャネル、カールエッジなどの高度な意匠や極限まで張り出しを抑えたコバなど、妥協のない作りが美しい。◎ヒロセシューデザイン



鈴木select

愛用しているブランドですが、このサマーモデルのパンチングの絶妙なカーブに目を奪われ、リストアップ。眺められたドレス靴のように足を入れるとシュボッと空気が抜ける音がして、なのに履くと指先は楽ちん。甲とカカトで心地よく足を締め付けてくれる、至高の履き味です。

No. **076**

MINEZO SPORTS SHOES /ミネゾウスポーツシューズ

■ **SPRINTER** /スプリンター

¥140,800

アッパーの伊・シャラーダ製スウェードの「白」が映えるこの一足は、19世紀末に登場した短距離走用トラックシューズがデザインベース。ハンドソーンウェルト製法の底付けならではの履き心地は文字通り金メダル級だ。◎ヒロセシューデザイン



飯野select

「これからの革靴」の理想像を具現化してくれたMINEZO。伸び止めテープを内部に付ける縫合線を表現した青・赤・黄のステッチラインも、デザインと強度とが両立し製造する廣瀬氏のセンスの良さが伺える。受注生産製なのでアッパーの素材やステッチの色のチョイスでも楽しみたい。



No. **077**

forme /フォルメ

■ **Monks** /モンクス

¥80,300

現代のモンクストラップシューズの原型にもなった、かつてヨーロッパで僧侶が履いていた靴。それにインスピレーションを得て出来上がった浅い履き口のスリッポンタイプの靴。素材は滑らかな肌目のカーフレザー。◎フォルメ



鈴木select

つくり手の感性がその手を動かし有機的な線が描かれ、それが次々と組み合わさって形ができていく。そんなデザインが持つ言葉にはできない力、普遍的な引き込まれるような美しさを感じる靴。実物を見ると衝動買いしそう。いや、間違いなく、する。



革靴のお手入れは難しくない!

革靴のつくり手のプライベートお手入れ③

革靴のプロである「つくり手」。革靴の企画や製造に携わる方だ。8名のつくり手にご自分の靴への日頃のお入れを聞いてみると、革靴のお手入れは意外とシンプルでも良いことが分かる。

取材・文/鈴木理也

Union Imperial 小田哲史さん Hiroshi Arai 荒井弘史さんの場合



荒井弘史靴研究所の代表、荒井弘史さん。

革を保湿して良好なコンディションを維持する。靴のつくり手にご自身の靴のお手入れ方法をうかがうと、この点を最優先してベシッなお手入れをしていることが多い。そうしたお手入れを重ねて長い年月愛用した革靴は「キズやシミのひとつひとつが、靴と共にしたかけがえのない時間を感じさせてくれます」と話してくれた小田さん。九分仕立での本格的な靴を中心に展開するドレス靴の老舗ブランド「ユニオンインペリアル」の企画を担当している。見せていただいた靴は小田さんが26年間愛用しているもの。小田さんを靴づくりに導いた記念すべき靴だ。「とくに変わったことをしているわけではありません。セオリー通りのお手入れをしている、と小田



ユニオンインペリアル レザー事業部 営業部 企画営業課 係長 小田哲史さん。



小田さんが愛用して26年の履いているという靴。革の味わいが感じ取れる。



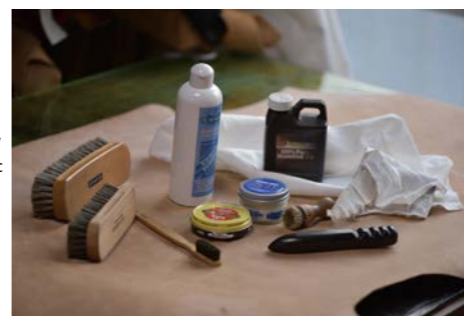
荒井さん愛用のブーツ。履き込まれた風合いを楽しむお手入れがされている。

さん。「革は靴を履いた足の水分を吸って足の形に合ってきます。時間をかけて自分の足にフィットした靴は唯一無二の相棒です」と言う。「鏡面仕上げでピカピカにする楽しみ方もあれば、革の味わいや素材感をそのまま生かすお手入れもあります」と小田さん。見せていただいた靴には後者の目的でお手入れされていた。

同様に「お手入れをするのは靴が活き活きと長生きしてほしいから」と言うのは主催する荒井弘史靴研究所でさまざまなブランドの靴の企画を請負いながら、ご自身のブランドの注文靴をつくり、有名な革靴メーカー、宮城興業の社外取締役を務める荒井さん。主として「馬毛ブ

ラシで汚れを落とし、乾燥具合によってオイルやシュークリーンなどを使い分け、短い毛のブラシで馴染ませながら表面を拭き取る「基本に忠実なお手入れをしているそうだ。その上で「靴が何を欲しがっているのかを聴いて、靴にどんな風になってほしいのかを意識して」プラスアルファのお手入れをする。たとえば、ワックスや樹脂で耐水性などを加え

シューケアキットも使い慣れたものを基本に。



たり、画像の愛用するブーツのようにならぬようにビジュアル的な化粧を施したり、といったものだ。お手入れの目的をはっきりさせることが大切なのだ。



小田さんのケアセット。